

マイコミュニティフォーラムによる地域若者の啓発活動とその成果について

寺田耕治（公益資本主義推進協議会）

Keyword： 地域振興、若者支援、NPO 支援

【問題・目的・背景】

世界および日本において株主資本主義への著しい偏りが蔓延している。このことは、南北格差の固定化、先進国内での貧富の格差拡大、テロの温床となる国家秩序の破壊など、各種社会問題の一因となっていると考える。

こうした世の中の傾向に警鐘を鳴らすため、筆者が所属する一般社団法人公益資本主義推進協議会（PICC）では、日本に古来より存在している経営者の考え方である公益資本主義（中長期的経営視点、社中分配等）を学び、実践し、啓発するための活動をしている。

公益社会の実現を目指し、経営者を中心に様々な実践活動に取り組んでいるが、その一つとして2016年12月から「マイコミュニティフォーラム」をスタートさせた。これからの世界を支えていく若者達に対し、公益資本主義をベースとした考えを発信することで、社会への意識を“OFFからONへ”変え、社会の新たな中心軸を作っていくことが狙いである。

短期的には若者に自身の使命感や利他の精神について気付きを与えることを目標にしている。その中には、たとえば自発的に選挙参加をする若者を増やしたいということも含まれている。中期的には、全国に5万あると言われるNPO、NGO、社会企業を支援しながら、公益社会に向かっていく人々を増やすムーブメントを作ることが目標。そして長期的には、そういう団体・人がマジョリティになり、公益社会がこの世の中に築かれていくことを期待している。

【研究方法・研究内容】

① フォーラムの開催

学生や子育て世代をターゲットとしたテーマで「マイコミュニティフォーラム」を全国で開催した。

●（第1回 宮城開催）

2016年12月10日（土）13:00～17:00

場所：常盤木学園高等学校・シュトラウスホール

テーマ：若者の地域参加とスポーツを通じた地域活性

●（第2回 東京開催）

2017年1月18日（土）13:00～17:00

場所：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター

テーマ：地域（力）で育む子どもの未来、成功の“鍵”は、地域のチームづくり

●（第3回 愛知開催）

2017年2月25日（土）13:00～17:00

場所：愛知学院大学 名城キャンパス アガルスタワー10F

テーマ：わたしたちの未来はわたしたちの手で～若者が地域を元気にする～

●（第4回 大阪開催）

2017年3月25日（土）13:00～16:45

場所：大阪科学技術センター 8階大ホール

テーマ：全ての学生に贈る幸せな働き方のアドバイス

●（第5回 福岡開催）

2017年5月20日（土）13:30～17:00

場所：福岡大学病院メディカルホール

テーマ：「幸せ」「豊かさ」の見つけ方～私たちが抱えている閉塞感の答えを見出す～

●（第6回 宮城開催）

2017年6月17日（土）13:30～16:40

場所：エルパーク仙台 スタジオホール

テーマ：未来をつくる SENDAI 学生会議～地域活性って何だ？～



●（第7回 東京開催）

2017年7月22日（土）13:30～17:00

場所：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター

テーマ：～未来をつくる～ TOKYO 学生会議
「集え！君の“今”には価値がある！」



各地域の経営者や学生、NPO 等に企画段階から参加を募り、各地でそれぞれ討論したいテーマを決めている。

宮城ではスポーツ、東京では子育て、愛知では地域活性と一見バラバラだが、共通しているのは若者に地域/社会参加について興味を持ってもらうこと。

はじめにフォーラムの代表世話人の一人であり、ニュースキャスターの村尾信尚氏から『私の社会をつくるための2つの券』と題した講演があり、「私たちは社会を変える2つの力、投票用紙と日本銀行券を持っている」ということを平易に解説する。その後はテーマに沿ったパネルディスカッションや講演等が行われるのが、基本のフォーマットになっている。回を重ねる度に、一方的に聞くだけでなく、聴衆も一緒に参加できるワークショップ型の取り組みが採用されるパターンが増えてきた。

講演を通じて、聴衆に自分と地域・社会との関係性について気付きを与えると同時に、自分自身は地域や社会に対してどのようなことができるのかについて考え、発言できる場を提供することで、参加者の満足度が高まっている。

今回は来場者アンケートを分析しながら、マイコミュニティフォーラムの効果や今後の可能性について検討していきたい。

② 来場者アンケートの実施概要

フォーラムの課題について把握し改善につなげるため、毎回、来場者に定形設問5問（選択式）とフリーコメントを記載するアンケート用紙を配布し、回答を求めた。

- ・母集団 マイコミュニティフォーラム参加者 782名（第1～6回まで）
- ・有効回答数 331通（有効回答率42.3%）
ただし、地域により一部設問が異なる場合がある。
- ・調査期間 2016年12月10日～2017年6月17日

○設問の骨子

基本情報：年齢、性別、イベントを知ったきっかけ

Q1 今回はどのような目的で当イベントに参加いただきましたか？ ※複数選択

Q2 フォーラムについて、10点満点で評価してください。

Q3 フォーラムの中で一番印象に残っている話は何ですか？ ※複数選択

Q4 本日まで参加いただき、何か気持ちや考えに変化はありましたか？ ※複数選択

Q5 次回、このようなイベントがあれば参加しますか？

Q6 その他、フォーラムの感想・会場についてのご意見

などがございましたらご自由にお書きください。

○回答者の属性

回答者の年齢は、フォーラムのメインターゲットである10代、20代の若者がおよそ4割を占める。主催者である一般社団法人公益資本主義推進協議会が若手経営者を中心とした組織であるため、30代・40代も4割以上いる。（愛知のみ年齢ではない設問にしたので除外している。N=290）

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	無回答
49人	71人	64人	71人	27人	6人	1人	1人
16.9%	24.5%	22.1%	24.5%	9.3%	2.1%	0.3%	0.3%

男女比については特筆すべき点はない。（N=331）

男性	女性	無回答
194人	136人	1人
58.6%	41.1%	0.3%

イベントを知ったきっかけは、知人、PICC関係者、学校・会社で8割を占める。人的アプローチの有効性を確認できる一方、チラシやFacebook、LINEといったツールを活用した告知および動員を強化することが今後の課題と考えている。（本問に関しては、一部複数回答者が存在。N=331）

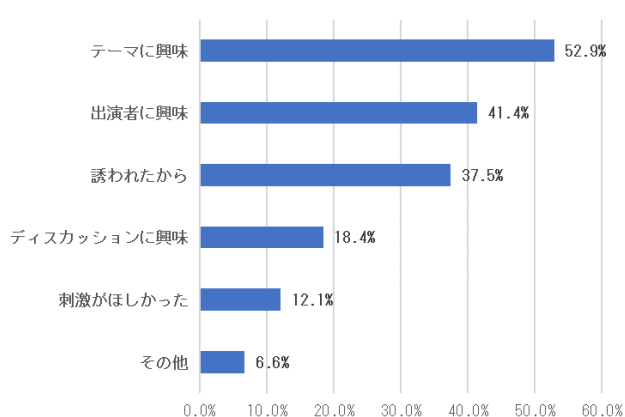
知人	家族	学校・会社	チラシ	ネット系	PICC関係者	その他
142人	20人	59人	8人	20人	76人	10人
42.90%	6.04%	17.82%	2.42%	6.04%	22.96%	3.02%

【研究・調査・分析結果】

Q1 フォーラムへの参加目的について

「テーマに興味」があって参加した人が52.9%で最も多い。次いで「出演者に興味」が41.4%、「誘われたから」が37.5%となっている。

Q1. フォーラムに参加した目的（N=331）

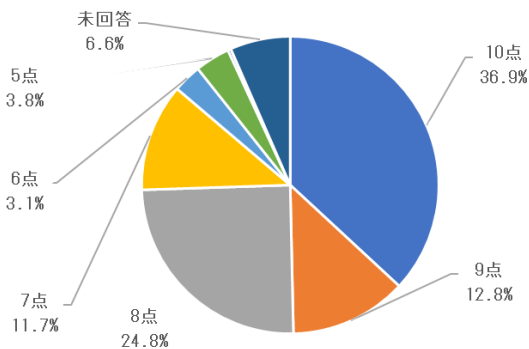


Q2 フォーラムの評価

参加者にフォーラム全体について 10 点満点で評価してもらった結果、最高評価である 10 点が 36.9%で最多となった。8 点以上が全体の 3/4 を占めており、3 点以下の低評価は 0 名ということで、フォーラムへの高い満足度が確認できる。

全体の得点を平均すると 8.60 点、最も平均得点が高かったのは、宮城で開催した第 6 回の 9.13 点。高い得点を獲得した開催の傾向としては、来場者参加型のワークショップを採り入れているパターンが当てはまる。前半の講演を聞くことで自分と地域・社会との関係性について気付きを得られたこと。さらに、その得た気付きをワークショップで発言できる場を提供することで、参加者の満足度が高まっていると推察している。

Q2. フォーラムの評価 (N=290)



Q3 一番印象に残っている話

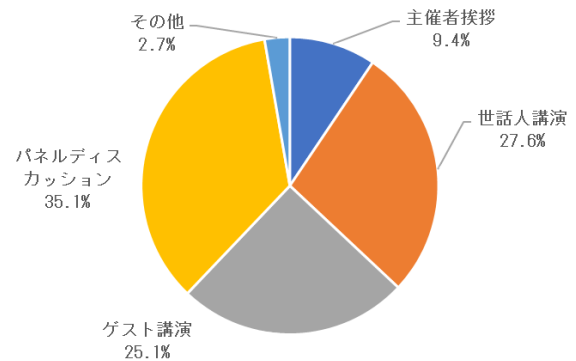
フォーラムの中で一番印象に残っている話を聞いた。“一番”と言いながらも複数回答者が多かったこと、また各回で構成が異なるため、まずは開催回別に支持率を算出し、それを開催回数で割った平均値を支持割合とした。

一番印象に残っている話として支持されたのは、パネルディスカッション。地域のゲストパネラーを招き、開催テーマに合わせたディスカッションを世話人も交えて行っている。例えば『「幸せ」「豊かさ」の見つけ方』と題した第 5 回の福岡では、私たちの社会が抱える様々な課題から、「子育て」「障がい者雇用」「就職・採用難」をピックアップし、その解決に会社を挙げて取り組んでいる地元企業、しかも大企業ではなく中小ベンチャー企業のアイデアあふれる事例を紐解きながら、明るい未来づくりに向けて考えていく時間とした。

また、一口にパネルディスカッションと言ってもいろいろな形式で取り組んでいる。単純にパネラーの話聞くだけの形式よりも、来場者もディスカッションに参加できる

ワークショップ形式を採り入れたものが、より高い評価を得る傾向にあることがアンケート結果から分かった。

Q3. 一番印象に残っている話 (各回平均)



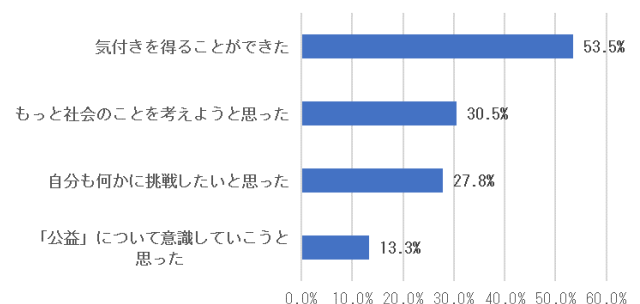
Q4 気持ちや考えの変化

講演やパネルディスカッションを聞き、何か気持ちや考えに変化が生じたかについて質問した。各地でテーマや講演内容に合わせてアンケートの選択肢も変えているため、ここでは全体で共通している項目のみピックアップした。

最も多い回答は「気付きを得ることができた」で 53.5%。フォーラムに参加した過半数に、何か気付きを得て持ち帰ってもらうことができたことが分かる。

次いで「もっと社会のことを考えようと思った」30.5%、「自分も何かに挑戦したいと思った」27.8%となっており、約 3 割は単なる気付きから一歩進み、思考や行動を変えるきっかけになっていると捉えていることが分かる。フォーラムの狙いである社会に対する意識を“OFF から ON へ”の第一歩として、着実に前へ進めていきたい。

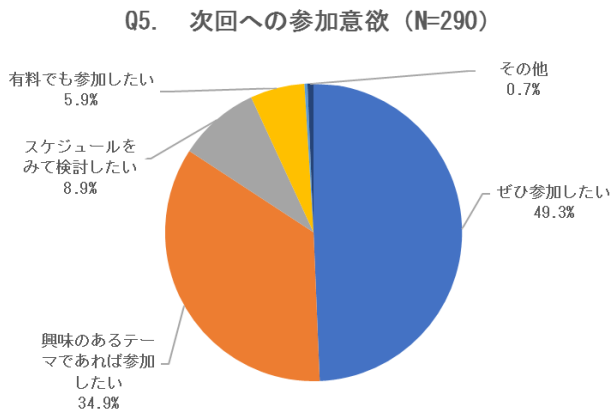
Q4. 気持ちや考えに生じた変化 (N=331)



Q5 次回への参加意欲

最後の質問として、次回フォーラムを開催した場合の参加意欲についての質問を設けた。最多は「ぜひ参加したい」で 49.3%。次点の「興味のあるテーマであれば参加したい」と合わせると、8 割強が次回への参加意欲を示している。選択肢として「あまり興味がない」「もう参加

しない」も用意したが、回答者は1%にも満たなかった。



【考察・今後の展開】

もともと、「これからの世界を支えていく若者達に公益資本主義の考えを発信することで、社会に対する意識を“OFFからONへ”変えていきたい」という想いだけで、何もなしのところからスタートした取り組みである。「どういうテーマであれば若者に興味を持ってもらえるか?」「誰をゲストに呼ぶか?」「どうやって集客するか?」等、全てが手探りの中であったが、2017年7月の開催で実施回数が7回を超え、ようやくフォーラム開催のノウハウが固まりつつある段階となってきた。

アンケートや来場者の反応を見る限りでは、内容については概ね合格点をいただいていると認識している。特に高く評価されているポイントとしては、気付きのある講演を聞くことができる場であると同時に、学生と大人が対話できる場であるという二点。有識者や著名人の話を一方的に聞くだけの機会は世の中に多いと思うが、マイコミュニティフォーラムのようにインプットとアウトプットの両方を同時にできる場を、全国規模で展開していることは独自性があると考えている。

参加した学生からは、「自分の世界観が広がった」「知らない大人と話しをするのが、こんなに楽しいなんて知らなかった」という声があがっている。また、ニュースキャスターの村尾信尚氏は、「人から意見を得ることは、今の時代はインターネットでもできることだと思う。しかし、今日のように一つの場所に多くの人が集まって話し合う空間では、相手の表情やししゃべり方、服装、そういうもの全て含めていろいろな情報が入ってくるので、インターネット空間とは質的に全く違う情報交換ができていますと強く感じました」と、フォーラムで提供している対話の場の価値を高く評価いただいている。

一方で、フォーラムに参加してもらい、気付きを与えるだけでは、一過性のものに終わってしまう恐れがあることは課題としてとらえている。フォーラム開催後も来場者やゲストと連携し、これから継続的に接点を持てる方法を検討し、取り組んでいきたい。

また来年度については、大学生をメインターゲットに、彼らの就職意識や就労意識に対して気付きを与えていくことを、全国共通のテーマとして取り組んでいきたいと検討している。もともと PICC は「働く」＝「社会への貢献」、「会社」＝「社会の公器」という考えをベースに活動している経営者の集まりである。こうした経営者と「働くこと」「就職すること」に迷いや不安を持っている若者が直接対話できる場を設けることで、一人でも多くの学生が納得感を持って職業選択できる機会を提供していきたい。

これまでの活動の中で、地域/社会のために活動している団体が数多く存在すること、彼らは横（同じような活動をしている他団体）とのつながりを求めていることが把握できた。実際に、フォーラムをきっかけに団体同士が知り合い、協業する事例がいくつか生まれている。また、フォーラムの企画・運営自体について地域の学校と協力することで若者の集客、会の運営等に高い相乗効果があることが分かってきた。

今後はこうしたつながりをあらかじめ意識しながら、世話人、地域活性学会、地方議員、NPO・NGO、学生等、より多くの人たちを巻き込んで一つの地域コンソーシアムをつくっていきたい。

そして、そのつながりから生まれた成功事例を共有していくことで、この手法を活用した地域/社会振興、若者支援、NPO 支援について横展開をはかり、公益資本主義の考えを日本中、世界中へと広げていくための一助としたい。

【引用・参考文献】

- 原丈人、2013年9月27日、『増補 21世紀の国富論』
- 原丈人、2017年3月17日、『「公益」資本主義 英米型資本主義の終焉』
- 大久保秀夫、2016年2月26日、『みんなを幸せにする資本主義—公益資本主義のすすめ』